偲郷（しきょう）

須木中学校通信　第１６号

平成２７年１０月１４日発行　文責　寺原

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

命について考える　２

２学期が始まりました。文化祭も近づいています。気持ちを新たに頑張ろう。

前回に続き、命について考えてみましょう。今回は「いじめと自殺」です。

新聞やＴＶでずいぶん前から報道されていますので知っていると思いますが、「いじめ」による自殺事件が起こっています。

事件が起こると決まって、「学校が悪い」「親が悪い」「教育委員会が悪い」「政治が悪い」「社会が悪い」などの議論が行われます。

先生は「誰が悪いのか」の議論は、あまり意味がないと思っています。

それよりも、いじめやそれによる自殺がなぜ起こるのかということを、深く考えることが大事ではないでしょうか。

先生は、いじめやそれに伴う自殺が起こる根本的な原因は、「命」について考える機会が少ないこと、そして人との接し方が分からないことだと思っています。

息子さんを交通事故でなくした、あるおとうさんの講演会での話。

『朝「いってくるね」と言って学校へ行った我が子が、その日の夕方には二度と話せない変わり果てた姿で戻ってきた。こんなことなら・・。と後悔ばかりが心の中を駆け回った。』と語ってくださいました。

死ぬことなど考えても望んでもいないのに、突然の事故や事件などで命を失う方もいらっしゃいます。交通事故しかり、自然災害しかり、戦争しかり。

誰しも死ぬことが最も怖いことです。

「いじめ」は、「**いじめから逃れ楽になろうとして、その最も怖いことをあえてする**」ぐらい大変なことなのです。

このことを深く自覚すれば、「冗談だった」「遊びだった」では済まされないことだと分かると思います。

「こんなことをすれば相手はどう思うだろう。どう感じるだろう」、これが相手との接し方の基本ではないでしょうか。これを「**相手意識**」といいます。

私たちがいつも「相手意識」をもって過ごすためには、一人一人が「**自分のことをちょっとずつがまんする**」ことが必要です。

その「**ちょっとずつのがまん**」を出し合うことにより、みんなが気持ちよくすごせるのではないでしょうか。

幸い須木中では、お互いが優しい気持ちで相手と接してくれています。

とてもうれしいことです。みんなで「いじめ」が絶対起こらない学校にしましょう。

≪「いじめ」とは～文部科学省≫

これまでは・・

> 自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

今は・・

> 当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

難しい言葉が使われていますが、これまで「弱い者」や「継続的」や「深刻な苦痛」など、「いじめ」の範囲が限られていたのですが、今は、回数とか苦痛の程度とかを問わず、**本人が苦痛と思うことの全てが「いじめ」であるという考え方になりました。**

須木中の「**いじめ撲滅宣言**」を学校の宝として、いつまでも「いじめゼロ」を続けよう。